

生活援助技術論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：1 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：教授・永井 睦子

科目担当者（職位・氏名）：助教・野中みつ子、助教・山田 英子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：46

■ 授業概要

対象となる人の安全・安楽・自立・自律を保証しながら、対象者の日常生活を支援するための看護技術の意義と、生活援助技術の基本を教授する。そして、日常生活行動への支援を必要とする健康障害を持つ対象者に対して、適切な看護実践の過程を体験を通して修得できるよう教授する。さらに、常に対象者の想いに寄り添い、対象の個別的な状況を考慮して看護を実践しようとするケア・スピリットの基盤となる姿勢・態度が修得できるよう教授する。

■ 到達目標

1. 看護職が対象者の日常生活行動を支援することの意義を説明できる。
2. 日常生活を支援するための日常生活行動の援助技術を、対象者の安全・安楽・自立・自律を考慮して実施できる。
3. 演習での体験を通して、対象者の日常生活行動を支援する上で必要な判断力と倫理的配慮が実施できる。
4. 対象者に合わせた具体的な援助計画の立案・実施・評価の必要性が理解できる。
5. 学習課題および演習に積極的に取り組み、看護技術の習得のための主体的な行動がとれる。
6. 他者と協力しながらよりよい看護実践をめざした意見交換ができる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

安全・安楽・自立・自律、倫理的配慮、日常生活行動、援助技術

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	オリエンテーション 日常生活と看護	【講義】 生活援助技術とは	永井
2	自己の日常生活のアセスメント	【講義】 自己の安全で安楽な日常生活のアセスメント (グループワーク、全体討議)	永井
3	身体の清潔の援助技術 ①	【講義】 清潔の意義と必要性 皮膚・粘膜の生理的メカニズム 衣生活・清潔のニーズのアセスメント 清潔の援助方法の選択	永井
4	身体の清潔の援助技術 ②	【演習】2グループに分かれて実施する。 手浴、足浴、寝衣交換	共同
5			
6	身体の清潔の援助技術 ③	【演習】2グループに分かれて実施する。 清拭の基本的な方法、各部位の拭き方	共同
7			
8	身体の清潔の援助技術 ④	【演習】2グループに分かれて実施する。 全身清拭	共同
9			
10	身体の清潔の援助技術 ⑤	【演習】2グループに分かれて実施する。 洗髪	共同
11			
12	安楽を確保する援助技術①	【講義】 体温調節のしくみ 褥法による体温の変化と管理 冷却と保温の意義、リラクゼーション	永井
13	安楽を確保する援助技術②	【演習】2グループに分かれて実施する。 温褥法、冷褥法	共同
14			

15	食事・栄養の援助技術①	【講義】 食事・栄養の意義、食事に関する生理的メカニズム、 栄養状態のアセスメント 病院における食事、援助方法の実際	永井
16	食事・栄養の援助技術②	【演習】 2グループに分かれて実施する。 経口摂取の援助（自力で摂取できる場合） 口腔ケア	共同
17			
18	排泄の援助技術①	【講義】 排尿・排便の意義、解剖生理学的メカニズム、排尿・排便障害の種類、援助方法の選択 排泄のニーズのアセスメント	山田
19	排泄の援助技術②	【演習】 2グループに分かれて実施する。 床上の援助、おむつ交換、 ポータブルトイレ介助、陰部洗浄	共同
20			
21	<実技テスト①>	2グループに分かれて実施する。 全身清拭、寝衣交換	共同
22			
23	総合演習① 対象の状態の把握 援助計画の立案	【講義】 紙上事例の援助計画(行動計画)の立案 ① 対象の状況を把握するために必要な情報 ② 対象の入院生活に合わせた援助計画	永井
24	総合演習② 対象の状態の把握 援助計画の立案・修正	【演習】 グループワーク 以下の項目について意見交換しながら、援助計画の立案・修正を行う 対象の個性、援助内容の必要性和根拠、観察項目 実施上で留意すること、期待される成果	共同
25	総合演習③ 援助計画に基づいた 援助の実施	【演習】 2グループに分かれて実施する。 立案した援助技術をもとに実施する。 実施した結果を記録し、実施した結果をもとに期待される成果は達成されたか、修正点は何か明らかにする。	共同
26			
27	<実技テスト>②	2グループに分かれて実施する。 コミュニケーション おむつ交換、車椅子移乗・移送、環境整備	共同
28			

29	総合演習④	【演習】 2 グループに分かれて実施する。 援助計画の評価・修正を行い、翌日の援助につなげる。 生活援助実習に向けて、対象の状況の把握、援助計画の立案について再確認する。	共同
30	援助計画の評価・修正 生活援助実習に向けて		

※予定は変更することがある

■ 履修条件

基礎看護援助論を履修していること

■ 成績評価方法

期末試験 50%、実技試験 40% 各単元の課題 10%

ただし、課題の提出状況が悪い場合は面談を行い、期末試験の受験について検討する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事前学習ワークシート、課題レポートのフィードバックは、コメントを付して行うとともに、質問欄に記載のあった内容については解説をする。
- ・実技試験は、試験終了時に担当教員から個別にフィードバックを行う。
- ・期末試験は、希望者に対してフィードバックを行う。希望者は、結果発表日以降 2 週間以内に、科目責任者へメールにてアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
基礎看護学 ② 基礎看護技術 I
基礎看護学 ③ 基礎看護技術 II

*授業資料およびワークシート、演習要項等はファイリングし、授業時には持参すること。

■ 参考書・参考資料等

- ・竹尾恵子監修（2019）『看護技術プラクティス 第4版』学研メディカル秀潤社
- ・境章著（2016）『目でみるからだのメカニズム』医学書院

配布資料：授業前にワークシートを配布する。演習時には、演習要項を配布する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・講義授業は 1 時限につき、事前・事後学修時間として 90 分、演習授業は 1 項目の授業につき、事前・事後学修時間として 90 分程度を必要とする。
- ・事前学修：ワークシート、自己練習、指定された事前学習
- ・事後学修：自己評価、復習、自己練習

■ 担当教員からのメッセージ

授業前に詳細な日程及びグループを記載したプリントを配布し説明します。

この授業では、全ての看護技術に共通して基本となる知識・技術と看護者としての姿勢を学習します。皆さんがこれから看護学を学んでいく上で、基盤となる大切な部分です。積極的に学修や演習に臨み、確実な態度や技術を身につけるために、自主練習を積極的に進めてください。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 17、nagai★iwate-uhms.ac.jp、特に定めませんが、事前に連絡して訪問してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の实務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

看護師

■ 実務経験を活かした教育内容

臨床での看護師経験や卒後教育への経験等を生かし、基礎看護学に関する専門的で実践的な講義および演習を行っています。